

- 調査対象 平均週2日以上リモートワークをしている20～69歳の男女  
(従業員数500人以上の企業にフルタイム勤務している人で、一般社員から部長クラスまでの社員)
- 調査方法 インターネット調査
- 有効回答数 1,030人
- 調査時期 2021年1月29日～1月30日

## 世の中を読むデータ

# 社長との心理的距離は「1万キロ以上」 25.2%

今回は、リモートワークをしている人を対象に行なった調査結果から、社長との間に感じている心理的距離（気持ちの上での距離）についてみてみたい。

社長は“同じ建物にいる”  
…………… **31.2%**

平均して週2日以上リモートワークを行なっている人を対象に、社長との“気持ちの上での距離”

について尋ねたところ、「違う都道府県にいる（500キロメートルくらい）」が23.9%でもっとも多く、以下、「別の部屋、別のフロアにいる（30メートルくらい）」（21.0%）、「同じ都道府県内の別のビルや建物にいる（30キロメートルくらい）」（19.8%）の順となった。

“同じ建物にいる”という距離感を持っている人は全体の31.2%（「一心同体とを感じる」「すぐそばにいる」

ばにいる」「姿は見えているが、少し離れている」「別の部屋、別のフロアにいる」の合計）で、残りの7割は、別の建物、違う場所にいるという認識だ。

「1万キロ以上離れている」  
…………… **25.2%**

驚いたのは、「海を隔てている、違う国にいる（10,000キロメートルくらい）」（10.8%）、「違う星にいる（4億キロメートルくらい）」（14.4%）など、1万キロ以上離れていると回答した人が全体の25.2%、4人に1人の割合で存在しているということだ。“国外”や“地球外”という途方もない距離感、もはや存在すら認知していないのではないかと勘繰ってしまう。

社長は会社のトップであり、ビジョンや仕事の価値観を従業員と共有し、経営をリードする立場にある。もし、従業員が、リーダーである社長の存在を意識しなくなった場合、経営は成り立たなくなるだろう。実際に離れて仕事をするリモートワークだからこそ、心理的な距離を縮めるための工夫が必要だ。上司や同僚との関係についても同様だ。そういう意味で、リモートワークは“遠距離恋愛”に似ているのかもしれない。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

社長との気持ちの上での距離 (n=1,030)

